

熊本大学広報誌

# 熊大通信

vol.

44

2012 SPRING

特集Ⅰ

## 学都創造

都市戦略のシンクタンク 熊本大学

特集Ⅱ

速報！震災復興・日本再生支援

熊本大学が、できること。



国立大学法人  
熊本大学

Kumamoto University





## CAMPUS SCENES キャンパスの風景

### サクラ咲く、熊本大学

新年度の始まりは、満開の桜で学内が彩られる。赤門はもちろん、文・法学部棟前(写真)など、春の風情を楽しむ。



# 熊大通信 44

2012 SPRING

vol.

## 熊本大学広報誌 熊大通信

\*皆さまのご意見・ご感想をお寄せください。

【発行】	国立大学法人熊本大学 〒860-8555 熊本市中心区黒髪 2-39-1 Tel.096-342-3119 Fax.096-342-3007 sos-koho@jimu.kumamoto-u.ac.jp
【編集】	熊大通信編集委員会 田中 智之／委員長・大学院自然科学研究科 大辻 正晴／文学部 河野 順子／教育学部 朝田 康禎／法学部 中田 晴彦／大学院自然科学研究科 米満 孝聖／大学院生命科学研究部 首藤 剛／大学院生命科学研究部 田中 尚人／政策創造研究教育センター 西村 兆司／マーケティング推進部広報戦略ユニット
【制作】	株式会社カラーズプランニング

## CONTENTS

03	新年度 学長インタビュー 五高時代のDNAを生かし "憧れの熊本大学"へ
05	特集Ⅰ 学都創造 都市戦略のシンクタンク 熊本大学
11	研究室探訪 倫理学を通して 冷静な頭脳と、温かい心を育てる 文学部 総合人間学科 田中朋弘研究室
13	特集Ⅱ 速報！震災復興・日本再生支援 熊本大学が、できること。
15	国際交流 インタビュー 熊本大学から世界へ 東田紗代子さん 世界から熊本大学へ アフザリ・ハミッドさん
17	卒業生ジャーナル
19	KUMADAI TOPICS
22	熊本大学基金よりお知らせ 表紙／熊本市市街地上空からJR熊本駅方面を望む



special interview

Isao  
TANIGUCHI

五高時代のDNAを生かし  
“憧れの熊本大学”へ

熊本大学長 谷口 功

平成24年度、熊本市の政令指定都市移行をはじめ、地域が大きな変動のときを迎えています。熊本大学もまた、新たな進化を求められる時代、教育・研究・社会貢献・国際化を四つの柱に、大学はどのように進んでいくのか、谷口 功学長にその思いを伺いました。

### さらなるスピード感を持つて

大学は自らの将来像を描きながら、その役割と責任を主体的に果たす存在であり、地域にとって大きな力となるべき存在です。かつて本学の前身である旧制第五高等学校がまちの誇りであった、そのDNAは今も本学に伝統として、あるいは五高精神として受け継がれているはずです。熊本大学もまた誇れる、憧れの大学でありたいと考えています。

今年度は、教育・研究・社会貢献・国際化の四つを柱とする「アクションプラン2010」(※1)も3年目を迎え、実現に向けて、さらにスピード感を持って取り組みたいですね。

研究については二つの「グローバルCOE」(※2)研究をはじめとする大型の研究プロジェクトに加えて独自の拠点研究なども進んでいます。熊大マグネシウム合金材料も新しいステージの研究が始まり、全学の教育研究施設として

「熊本大学先進マグネシウム国際研究センター」も開設しました。「我が国を代表する研究拠点大学」を掲げる本学にとって、研究成果は、その生命線でもあることとは言うまでもありません。

### 日本の将来に確かな手応え

交流協定大学も120機関を超え、昨年12月には430名を超える留学生を擁するに至りました。学生諸君が卒業後に活躍する近未来は、今より一層グローバル化した社会、積極的に「外」へ出て行って、切磋琢磨し力を付けていくことが大切です。いろいろなことをやれば失敗も多い。しかし、それが自分の力だと知り、再び挑戦することで成長していけることを伝えたいですね。学生の元気は、大学の元気であり、地域の、ひいては日本の元気にもつながります。

世界を舞台に活躍するためにも、まずは熊本や日本の文化や考え方を理解し、

その良さを再認識してほしいですね。

今年度も化学実験場の階段教室を活用して、新人生全員に、本学の学生としてのアイデンティティーや誇りを伝えるために、学長特別講義を行います。学生諸君の素晴らしい反応に、若者の力と日本の将来に確かな手応えを感じます。

### 新たな時代創造に叡智を結集

九州新幹線が全線開業して1年、熊本市はかねてより念願だった政令指定都市へと移行しました。熊本にチャンスが訪れたからといって、そのままでは変化は起きない。多様なチャンスを捉え、「私たちに何ができるのか?」と、新しい時代の創造や社会の発展のために、大学がイニシアチブを取り、行政や企業などと連携しながら進めていくことが大切です。これまで培ってきた叡智を結集させ、憧れの熊本大学への構築に向けて、今年度も教育、研究、社会貢献に尽力して参ります。



- ※1 アクションプラン2010…平成22年度から6年間の本学の『第二期中期目標・中期計画』をより具体的にわかりやすく「プラン」として示したもの。
- ※2 グローバルCOE…大学院の教育研究機能を充実・強化し、世界をリードする創造的な人材育成を図るため、教育研究拠点の形成を重点的に支援し、国際競争力のある大学づくりを推進する事業。本学からは「細胞系譜制御研究の国際的人材育成ユニット」(発生医学研究所・糸昭菟教授)「衝撃エネルギー工学グローバル先端拠点」(大学院自然科学研究科・秋山秀典教授)「エイズ制圧を目指した国際教育研究拠点」(大学院医学薬学研究部・満屋裕明教授)の3件が採択されている。



「特集I」

# 学都創造

都市戦略のシンクタンク 熊本大学

2011年の九州新幹線全線開業、

そして政令指定都市移行を迎え、

熊本市は新たな局面を迎えている。

これまでも社会貢献や知の還元など

地域のシンクタンクとして大きな役割を担ってきた

熊本大学が今、目指すものは「学都創造」。

躍動する新しい都市づくりに向けて

熊本県・熊本市とタッグを組み、

全国に先駆けた都市戦略を展開している。

*To create  
the academic city*



熊本のトップ3がそろって、都市戦略について発表。一斉にメディアが動くことも大きな意義を持つ。  
(写真左から、蒲島郁夫熊本県知事、幸山政史熊本市長、谷口 功学長)

## 日本の産官学協働を先駆ける熊本

政令指定都市移行を見据えて立ち上がったプロジェクトの一つが「くまもと都市戦略会議」。熊本県知事・蒲島郁夫氏、熊本市長・幸山政史氏へ、本学・谷口功学長が声を掛け、トップ3で今後の都市戦略について語り合うというものだ。スタートから1年を過ぎ、念願だった経済・産業界からもメンバーを招いた。

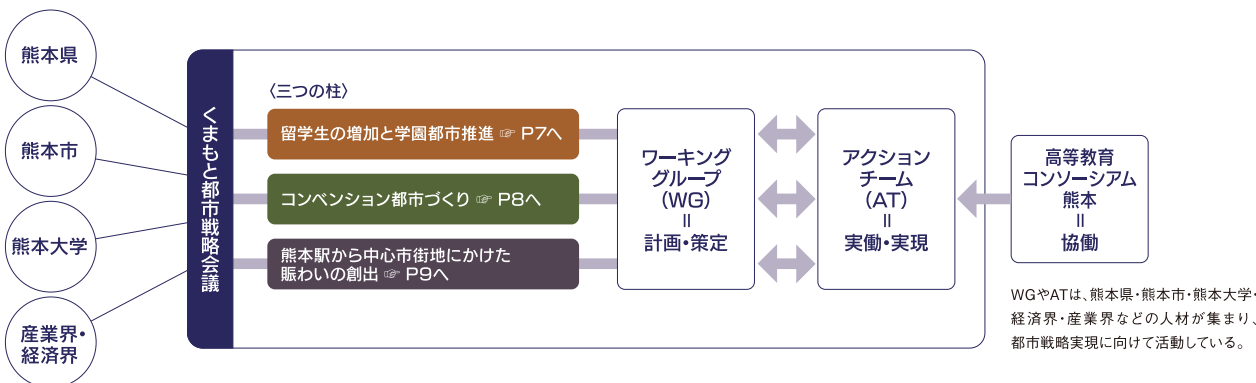
大学側が都市戦略に深く関わることは、全国の産官学協働の中でも先進的な取り組みであり、大きな可能性を秘めている。「三者が三位一体となり、さらに経済界・産業界を巻き込むことで、何倍もの力を発揮できる。大学には、多方面の専門家と知の創造という財産がある。県や市と互いの財産を共有することで、熊本にさらに活力を与えたい」と語る谷口学長。大学に集まる若い「頭脳集団」の力が地域の新たな発展の道筋をつくっていく。「学都創造」とは、全国の中でも学生が占める人口比率が高い熊本ならではの優位性を生かしたまちづくりともいえるだろう。大学が都市戦略の中心に入ること、利害関係にとらわれない議論ができる意義も大きい。

「くまもと都市戦略会議」には三つの柱がある。「留学生の増加と学園都市推進」では、留学生の増加を目指し、さまざまな施策が進められており、「コンベンション都市づくり」では一足先に熊本上海事務所が開設され、一つのアクションが完了した。また、「熊本駅から中心市街地に向けた賑わいの創出」では、坪井川・白川界隈の整備や新町・古町の街並みづくりなどが進んでいる。それぞれのワーキンググループ（以下、WG）とアクションチーム（以下、AT）に、大学の「知」が生かされているのだ。

こうした取り組みの先にある目指すべき学都の姿とは「世界に誇れる国際都市」と、谷口学長は言い切る。「火の国・熊本の大きな魅力は、雄大な自然と緑あふれた森の都。100%の地下水都市であり、また伝統文化もある。加えて、本学をはじめとする各高等教育機関による最先端の研究・教育が、地域の魅力を形成する。海外にはない先進の文化と歴史伝統の共存は、熊本のグローバルバリエーションの大きな力となる」。

先進の研究・教育とコンベンション、活気溢れる若者たちがまちの元気を生み、学都の核を成す。都市戦略実現の力ぎは、熊本大学が握っている。

くまもと都市戦略会議の体系図



# 交

## くまもと都市戦略会議 留学生の増加と 学園都市推進

### ① 学園都市くまもとのコンセプト 「OPEN(オープンなまち・人・ こころ・学び)」

「留学生の増加と学園都市推進WG」では、WGによるコンセプトの設定を行った。今後ATへの移行に向けた取り組みへ。

### ② 昨年12月、留学生向け 合同就職説明会を 県内初の取り組みとして実施

「留学生のまちづくりAT」では、上記に加えて「留学生のための宿舎の確保」「留学生・元留学生との多様な交流・ネットワーク化の促進」「留学生が活躍できる場・機会の創出」などについて検討を進める。



熊本の歴史を知ってもらうために、「水俣環境センター」を訪問、負の遺産を乗り越えて先進のエコ都市となった水俣市の現状を視察



大学院自然科学研究科  
岸田光代教授

バックグラウンドや価値観が異なる人が大学に集まると、多様性のある研究が生まれる。もっとオープンな地域社会になることが大きな課題です



昼食の時間を生かして、英語でディスカッションを行う  
「ランチタイムイングリッシュ」

## 外からの力と 融合し、変化する

学都創造の大きなテーマの一つが国際化である。「くまもと都市戦略会議」では、「留学生の増加と学園都市推進」として、留学生の増加施策に取り組んでいる。留学生のための就職相談会やインターシップ事業など、「高等教育コンソーシアム熊本」（谷口 功会長）との協働で幅広く展開し、着々と成果を積み上げてきた。

「高等教育コンソーシアム熊本」で掲げている目標は、「県内留学生2000人計画」。平成22年度には熊本市の協力で、「東アジア留学生インターシップ事業」

を行い、中国をはじめとする大学院学生等を迎え、行政インターシップを行っている。本学では、事前の研修をサポートしたほか、平成23年度には上海市より公共政策を研究している留学生3名を大学で受け入れている。留学生増はもちろん、東アジア圏との交流もさらなる活性化を目指す。

「留学生のまちづくりAT」のメンバーの一人である自然科学研究科・岸田光代教授は、「さまざまなアイデアが生まれる『外からの力』と融合し、変化することがまちの発展の重要なキープポイント」と語る。「企業の中には雇用を検討している会社もありますが、まだまだ受け入れに慣れていないところがほとんどです。まずは地元で優れた人材としての留学生をアピールし、友好のネットワー

クを構築することが必要ですね」。課題の一つに留学生のための資金や宿舍の問題が挙げられている。ATでは公営住宅などの既存宿舍を活用したり、賃貸住宅契約についての支援など、具体的な援助を継続的に実施していけるような組織体制の構築を目指す。

さらに携帯端末の利用やSNS(ソーシャル・ネットワークキング・サービス)の活用など、若者が興味を引くような情報発信の形態を取り入れ、誰もが必要な情報を気軽に入手できるシステムの構築も必要だ。

「留学生の受け入れはもちろん、学生たちも自ら海外へ目を向けてほしい。その交流こそが国際化の第一歩。学都創造の大きな一歩につながりますね」と岸田教授は、学生たちの意識改革も期待する。





熊本大学政策創造研究教育センター  
大川千寿特任准教授  
コンベンションシティとして選ばれるためには、「熊本らしさを表すシンボルが必要」と語る大川特任准教授。商業施設の充実やモノが何でもそろふことともに、選ばれるための個性的なイメージ戦略も重要だ



現在はいくつかの施設が共同で学会などの開催を支えている。コンベンションホール完成後は、年間約200件、およそ40万人の利用を目標に掲げている

# 集

## くまもと都市戦略会議 コンベンション 都市づくり

### ① コンベンションシティ基本構想案「MICEの推進」決定

素案では桜町地区のMICE<sup>※</sup>施設(多目的ホール・会議室等)整備を核としたコンベンションシティの実現を目指す。

### ② 熊本上海事務所開設とATの完了

1月11日に県・市・本学三者合同の熊本上海事務所を開設させ、ミッションを完了。今後三者の連携により運営が行われる。

※MICEとは、Meeting(会議・研修・セミナー)、Incentive tour(報奨・招待旅行)、ConventionまたはConference(大会・学会・国際会議)、Exhibition(展示会)の頭文字をとった造語で、ビジネストラベルの一形態を指す



コンベンションシティ化による留学生増にも期待が高まる。留学生に熊本の文化を体験してもらおうと、昨年行われた「火の国まつり」の総踊りに参加。「サンバおてもやん」を一緒に体験した

# 選ばれる コンベンションシティへ

世界から研究者らが集う学会などのコンベンション誘致は、都市戦略の重要な課題である。「くまもと都市戦略会議」でも「コンベンション都市づくり」を掲げ、3000人規模のコンベンションホールの建設を決定した。受け入れ体制を整え、誘致施策などが進んでいる。

政令指定都市となる熊本市の弱点ともいえるMICE<sup>※</sup>対策を中心に、進められているのが「熊本市コンベンションシティ基本構想」である。MICE推進による交流人口の増加を目指す。コンセプトは「国内外から選ばれるコ

ンベンションシティ」。市を中心に県や大学、経済界に市民も巻き込んで、MICE開催施設を中心市街地に建設し、経済的波及効果の高いMICEの誘致に取り組んでいる。

「コンベンション都市づくりAT」で活動する熊本大学政策創造研究教育センター・大川千寿特任准教授は、「アフターコンベンションでは、熊本の魅力を伝えるために観光モデルコースを案内をすることもあり、各地域との連携や、企業や市民・学生たちとの交流も発生し、まちの活性化につながります」と、シティツーリズムを絡めたMICE誘致に期待する。熊本城や五高記念館などの歴史遺産や阿蘇・天草の観光資源を最大限に生かすことが、他都市との差別化にもつながるとのことだ。

「学会などの誘致は大学にとって社会貢献の一種でもあり、地元で経済的な利益をもたらします。するとまち全体が元気になる、ひいては、賑わいのあるまちづくり」や「留学生の増加」にもつながります。中心市街地の再開発事業と併せて、九州新幹線全線開業の追い風があるうちに次のステップへ進むことが大切ですね」と大川特任准教授。

MICE誘致には、準備や運営、アフターコンベンションの手配など、コーディネート機能の充実も大きな課題の一つ。大学や研究機関は、大会主催者のキーパーソンとなり、積極的な誘致と開催情報の提供を行うほか、ソフト面でのアドバイスを行っていく。またコンベンション開催情報のデータベース化など戦略的な情報管理など課題も多い。

# 街

## くまもと都市戦略会議 熊本駅から 中心市街地にかけて 賑わいの創出

- ① 坪井川・白川のアメニティ空間の形成と熊本駅西口から北岡自然公園への散策ルート整備の具体化「熊本駅周辺賑わいづくりAT」では、坪井川・白川の背割堤(石塘)一帯のアメニティ空間づくりを推進。また、駅西口から北岡自然公園の散策ルートとして、歩道のカラー舗装やピクトサインの設置などを進めている。
- ② 新町・古町の街並みづくりの推進と藤崎台千年クスノキの観光資源化促進など  
新町・古町・熊本城周辺賑わいづくりATでは、城下町風情を感じられる街並みづくりを推進。「街並みガイドライン」「城下町づくりモデル街区」「町屋認定制度」を検討中。



白川河畔では、本学学生も参加している石塘周辺整備が現在進行している

## 街をつなぎ、人をつなぎ 新たな賑わいの空間誕生

「くまもと都市戦略会議」の三つ目の柱は「熊本駅から中心市街地にかけて賑わいの創出」。「坪井川・白川の環境整備によるアメニティ空間の形成」および「熊本駅西口から北岡自然公園などへの散策ルートの整備」「新町・古町地区の城下町風情を感じられる町並みづくりの推進」が進められている。

熊本駅から中心市街地まで、点在する観光資源をつなぎ、新たな賑わいの空間創造をテーマに展開される五つのプロジェクト。「坪井川・白川のアメニティ空間の形成」では、坪井川と白川背割堤



(石塘・いしども)周辺を整備。イベントなどを開催できる広い空間を造り、人が集う散策空間を目指す。

石塘の整備に携わる熊本県都市計画課 鉄道高架推進室・上野晋也室長は、「大学と一緒に事業を行う上で、最も画期的だったのは、学生の意見を取り入れたこと。今後、県の取り組みの上でモデルケースになるのではないかと考えています」と、学生たちの活躍を振り返る。

また、「北岡自然公園への散策ルート

の整備」では、起点となる熊本駅新幹線口(西口)に案内サインを付け、歩道のカラー塗装や路面にピクトサインを施し、分かりやすく誘導。次のスポットへ連続性を意識した整備で、回遊性を向上。

そのほか、歴史資産や今に残る町割を生かす「城下町の風情を感じられる町並みづくり」では、熊本ならではの魅力創造を目指す。熊本駅から中心市街地を面で結ぶ新たな賑わい空間の実現に向けてスタートを切った。

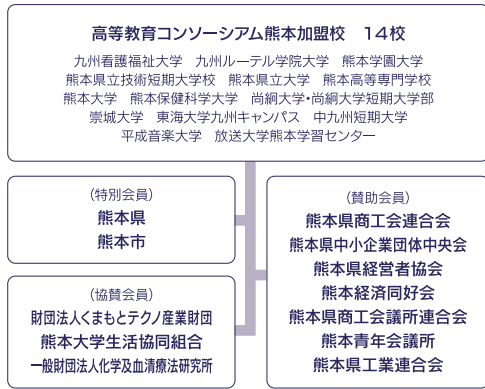


## 高等教育コンソーシアム熊本

熊本の14の高等教育機関と熊本県・熊本市、そして七つの経済団体が協力して、教育・研究をサポートし、地域への社会貢献を目指す。会長を務める谷口学長は「大学間の壁を取り払い、手をつなぐことで、高等教育の一大拠点になる。熊本の高等教育に対する印象を高め、理解を得ることもできる」と語る。

インターンシップ連携事業や進学ガイダンス・セミナーなど、幅広い取り組みを通して、学生たちの活動を支援し、留学生に向けた就職相談会なども開催。「高等教育機関が地域の発展のために、できることはたくさんある。大学の元気は都市戦略にも生きる」。熊本の未来を作る役割は若者が担っている。

## 高等教育コンソーシアム熊本 体系図



## 戦略のカギ握る 知の連携

熊本大学が携わるさまざまな機関には、熊本県や熊本市をはじめ、学外から多角的な力が集まっている。それぞれの専門家や知識者が集まることで、何倍もの力を発揮する“知の連携”がここにある。

### 熊本上海事務所

熊本県・熊本市・本学が協働で上海に事務所を設立。スタッフは県、市、本学の職員がそれぞれ1人と、専門のアドバイザーなど計5人で構成される。事業の内容は、県産品の販売促進や輸出入への支援、県内企業の中国進出へのサポート。そのほか、観光誘致や相互の交流支援、留学生誘致および中国の教育・研究機関との連携など多岐にわたる。

### 熊本知識者円卓会議

通称「熊本版ダボス会議」。県内外から政治や経済など識者や専門家が集い、熊本の未来を拓くビジョンや施策について討論する。

会議進行を務めた本学・上野眞也学長特別補佐は「従来、さまざまな問題や課題を抱えても思いを語るだけで解決できなかったことも、連携することで実現できる。多角的な意見が飛び



「熊本知識者円卓会議」(熊本版ダボス会議)の様子。(平成21年1月31日、「熊本城数寄屋丸」にて)

出すのも「ダボス会議」ならではの面白さ」という。次回は平成24年度4月に開催。「会議を傍聴するだけでなく、もっと学生たちにも参加してもらおうと、映像コンテンツを企画した。彼らの目に映る熊本の姿を映像を通して皆さんに見てもらいたいですね」。

学生たちが生き生きと発言できる場で、大学や、地域の元気が生まれる。彼らのプレゼンに期待が高まる。

「上海の人口は2500万人。そこに事務所を出すことで世界につながっていく。熊本を知らない人はまだまだ多い。正しい知識を現地で発信していくことの意義も大きい」と谷口学長。海外事務所を持つ県は他にもあるが、大学が中心となって参入しているところは他にはない。すでに海外オフィスを持つ本学の後押しが、世界へと道を切り拓いていく大きなパワーとなるだろう。



上海市内梅龍鎮広場に設置された熊本上海事務所。現在5名のスタッフが業務にあたっている

# 研究室探訪

Laboratory Exploration

田中朋弘研究室

文学部

総合人間学科

## さまざまな現代の課題に倫理学で切り込む!

尊厳死や、臓器移植など、さまざまな価値観がぶつかり合う現代社会。それぞれの課題に対し、倫理学を応用し、現場にいる人の手助けとなるような倫理的思考を提示する学問が「応用倫理学」です。「例えば、臓器移植に関していえば、人間の尊厳という価値観と、助かる命ならば、助けたいという価値観がぶつかり合っています。規範倫理学を応用して、課題の本質を突き詰め、現代社会に生かそうというのが応用倫理学の考え方です」。また、応用倫理学の中でも、特に現代社会の実践的な問題に向き合う「ビジネス倫理学」についての講義に重点を置く田中教授。卒業後、多くの学生がビジネス活動と関わりを持つことから、働くことの意味や、古代ギリシア以来の労働観、現代社会の消費主義と労働の関係などについて、自由にディスカッションを重ねています。

## 物事を客観的・論理的に判断し、表現する力を身に付ける

「倫理学を学ぶことで、客観的・論理的思考を身に付けるとともに、その思考を言葉や文章で適切に表現する力を磨いてほしい」と語る田中教授。倫理学は論証を重要視する学問。結論の根拠となる材料を過不足なくそろえ、段取りよく説明し、結論を述べるという段階を踏んだ論理的思考が要求されます。また「書く」という行為では「文献を読み取る」「思考する」「文章で表現する」という複合的な力が試されます。4年生の塚本彩さんはかねてより興味があった「幸福とは何か」を卒論で執り上げました。「哲学者・ノージックの『経験機械』(※1)という思考実験(※2)をテーマに、この機械につながれて快楽や満足を得ることが、倫理的に許容できるのか、その妥当性についてまとめました。何度も何度も先生に訂正していただき、仕上げることができました」と語ります。

## 「少しだけおせっかいになろう!」

テストや論文発表が終了した日には、鍋パーティーを開くのが恒例の田中研究室。「個人主義の時代ですが、“少しだけおせっかいになろう!”が僕のモットー。“ちょっと困っているかな?”と思う学生に声を掛けたり、息抜きの場をつくってあげることは、大切だと思っています。学生たちには、冷静な頭脳と温かい心を持つ人間になってほしいですね」と微笑みます。

田中朋弘研究室では、道徳規範を理論的に分析する「規範倫理学」から、生命や環境、ビジネス、情報など、現代のさまざまな事象を倫理的に思考する「応用倫理学」まで、幅広い研究を行っています。



↑ 書棚にはカント全集が数種類並ぶ。時代が変わっても「大切な本はカント!」とメンバーは声をそろえる

→ 研究室では、それぞれが選んだテーマに対して、ディスカッションを繰り広げる。先輩が掲げたテーマを軸に、下級生たちが疑問などを投げ掛け、検証していく



← 無類のカメラ好きの田中教授。研究室のみんなを撮影するのもコミュニケーションの一つ

↓ 研究室で行われる鍋パーティーは、学生の楽しみの一つ。田中教授が学生時代から使っている鍋は、今も現役



※1 経験機械…自分が望むどんな経験でも仮想的に経験できる機械のこと。これにつながれたら、ずっと幸福であり続けることも可能

※2 思考実験…実際に器具などを用いた実験ではなく、思考のみによって、仮想的現象を検証すること





# 倫理学を通して 冷静な頭脳と、温かい心を育てる

研究室は、院生も含め10人で構成。  
学生たちとのコミュニケーションを  
大切にしたいアットホームな雰囲気

速報!

震災復興・  
日本再生支援

[特集II]

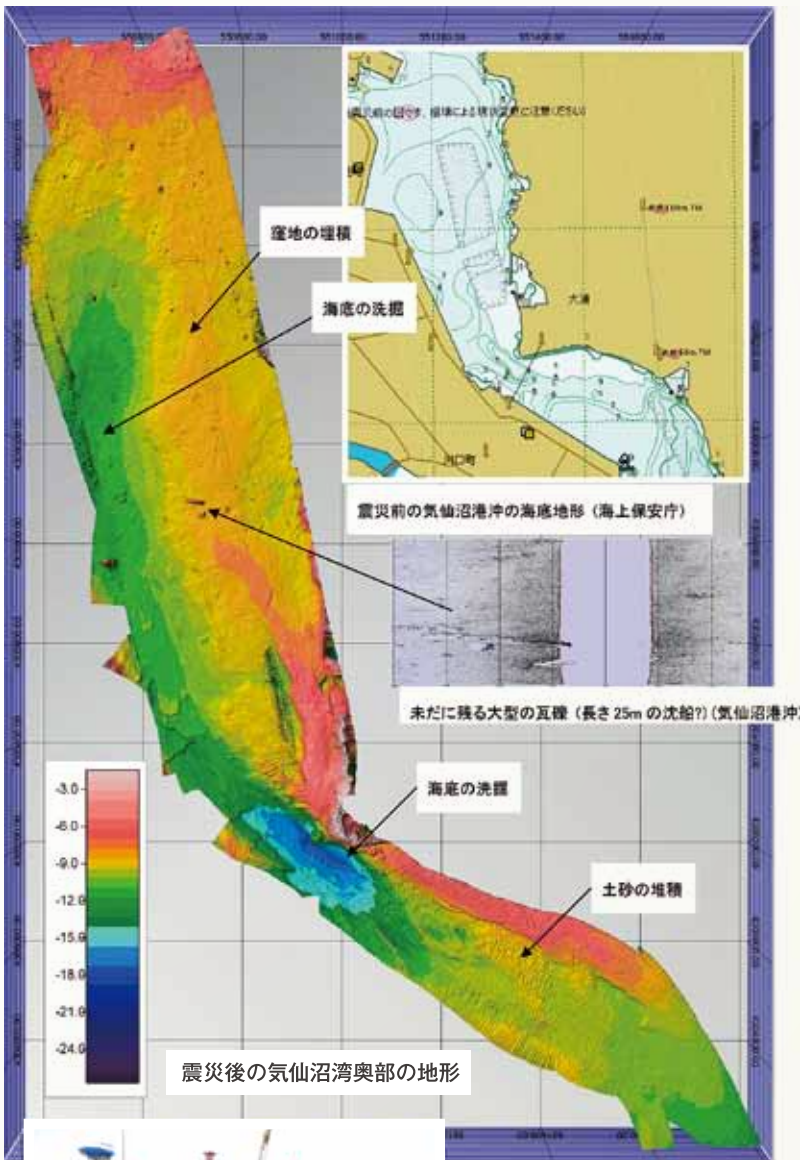
# 熊本大学が、できること。

未曾有の被害をもたらした東日本大震災の発生から一年が過ぎ、力強い復興の足音が聞こえています。熊本大学では五つの震災復興・日本再生事業(右下表参照)を中心に、さまざまな支援事業を行ってきました。その中の一つの事業と、3・11を目前に控えて行われた学生たちの支援活動の様子をご紹介します。

## 最新機器で取り組む海の再生

本学が取り組む支援事業の一つに「地域経済の回復・再生・創成に向けた世界最先端観測機器による水中環境調査事業」が挙げられます。一般社団法人国立大学協会の支援事業にも選定されており、最新の音響解析装置などを用いて海底の地形や底質を調査し、さまざまなデータを宮城県などに提供してきました。事業に取り組み熊本大学沿岸環境科学教育センター・秋元和實准教授に

とって、東北は第二のふるさと。「漁業のまちの復興は、海の再生から」と、地元の人々と協力しながら、気仙沼湾西海域の調査を進めています。収集したデータを分析し、高精度3D地形図や底質・流失物の分布図を作成して海中に沈んだガレキの位置を特定。効率よくガレキを撤去したり、底質の状態を把握するなど、早期の漁場回復が目標です。「東北の人たちは我慢強く、パワフル。漁場を回復することが、産業再生そして雇用創出などにつながる」と秋元准教授。今年度は他の海域の調査を行い、さらなる復興を目指します。



## 地域経済の 回復・再生・創成に向けた 世界最先端観測機器による 水中環境調査事業

(上)高精度3D地形図には、大型のガレキをはじめ、土砂の堆積など地震や津波で起きた海底の変化が現れ、正確な位置を特定できる (左)海中のガレキを調査するための音響解析装置の取り付け作業



### 熊本大学 震災復興・日本再生支援事業

1. 地域経済の回復・再生・創成に向けた世界最先端観測機器による水中環境調査事業(一般社団法人 国立大学協会選定事業) 世界最先端の性能を有する音響解析装置及びモニタリングロボットで地形・底質を調査し、収集した位置情報、画像およびサイドスキャンイメージに基づいて、高精度3D地形図と底質・流失物の分布図を作成し、自治体に情報を提供する。
2. 東日本/津波 復興計画提案事業 プロジェクトチームによる被災地調査および自治体から提供いただいたデータを分析し、自治体に復興計画を提案する。
3. 被災地沿岸における化学汚染の現状と経年変動に関する環境調査事業 震災前後に採取した二枚貝を分析し、化学汚染被害の詳細を調査して汚染の改善状況を長期的にモニタリングする。
4. 塩害地域の早期再生を目指した支援事業 塩害を受けた土地の上層部をはぎ取ることで水田としての早期復活を図る。また、はぎ取った土を用いて人工ブロックを作り、これを魚礁ブロックとして活用することを検証する。
5. インフラ施設復旧のためのコンクリートの損傷度評価(処方箋提示) 被災地での自治体による施設復旧工事計画立案のため、本学で開発した手法を用いてコンクリートの損傷度を評価し、自治体に解析結果と補修、補強等の対応策を提供する。



## 東北復興応援!岩手観光 プロモーションプロジェクト

現地で行ったボランティア活動はガレキの撤去。土中から現れる片方しかない子どもの靴や家族写真などを手に、現実を目の当たりにした。現地ボランティアセンター職員「その先の未来につなげていこう」という言葉が活動を支えたという



観光プロモーション開始前には、岩手県庁へ上野善晴副知事を訪問し、被災地の現状などの話を聞き、活動内容の報告を行った



街中でのチラシ配りや  
年配者向けのおけいこ  
教室などに向かいなど  
走り回る日々が続いた。  
被災地支援にさらに取り  
組もうと、プロジェクト  
終了後も活動を続ける  
メンバーもいるという



また、学生たちの復興支援もさまざまな成果を上げています。「東北復興応援!岩手観光プロモーションプロジェクト」には、熊本県内の大学生15名が参加。「東北へ旅行してもらおう」ことで、復興の「手助けを」と約3カ月間、岩手の観光PRと旅行商品の販売実習を行いました。本学からは、リーダーを務める工学部3年(当時)横尾正将さんをはじめ、5人が参加。事前に岩手県に1週間滞在し、ボランティア活動や観光資源を視察して、東北の「今」を自ら体感。その後、団体旅行ツアーで実際に岩手に送客するなど、

### 学生たちの思いが支える震災復興



### 日本を一本に ～日本全国たすきリレー～ in くまもと

ランナーの様子をインターネットで随時配信するなど、現場の域を出た取り組みが反響を呼んだ。沿道の人々からも福島へ届けるメッセージを白布に集め、熊本の思いを福島へ。それぞれの思いが一つになり、被災地に大きな元気を届けた



多くの実績を得ることができました。  
2月18日(土)には、文学部1年(当時)・平美実加(ふみか)さんが代表を務める「JASP(※)くまもと」が「日本を一本に日本全国たすきリレー」を主催。福島へ届ける白布に集まったメッセージは約80名分。そして参加した市民ランナーは約45名。ランナーからランナーへとたすきを受け渡し、多くの人々の応援メッセージとともにたすきを福島へと届けました。  
被災地の復興は、まだ始まったばかりです。熊本大学では、先進の研究と技術そして熱い使命を抱き、今後も長期的な復興支援に取り組み続けていきます。



※JASP…Japan All Student Project

# オーストラリアの先住民に関する文学について学びました

文学部文学科 超域言語文学コース3年 東田紗代子さん

2011年3月から11月まで、オーストラリアのニューカッスル大学で学んだ東田さん。将来は、エネルギー問題に貢献できるような仕事がしたいと語ります。



オーストラリア

## 交流



ホストファミリーのハーディー夫妻と記念の1枚。中国からの留学生もステイしており、多国籍の文化交流を体験したという

子どものころから英語が好きで、将来は留学したいと思っていました。熊大に入り、TOEFLに挑戦しましたが、なかなかスコアが伸びず、落ち込むこともありました。夢を実現するんだという強い気持ちがあれば、乗り越えることができなかつたかもしれません。

熊大では比較文学の研究をしています。世界の児童文学に興味があり、独自の文化を持つオーストラリアの大学で学びたいと思い、大学の交換留学制度を利用して、思い切って留学に踏み切りました。

オーストラリアには、アボリジニ族という先住民がいて、さまざまな言い伝えが残されています。アボリジニの人々の間で

長い間受け継がれてきた伝説は、日本にいても触れることができない貴重な文学であり、とても勉強になりました。

オーストラリアの大学には、講義形式の「レクチャー」と、ディスカッション形式の「チュートリアル」という2種類の授業があります。「チュートリアル」では、自分の意見を主張することが求められるので、英語力が付き、人見知りを克服することができましたね。ニューカッスル大には、熊大のように小さなゼミ形式のクラスがありません。アットホームできめ細やかな熊大の授業が恋しくなることもありました。

ニューカッスルは、オーストラリア最大の石炭輸出港として歴史を刻む町で、次第にエネルギーについて関心を持つようになりまし。ビーチでタンカーが行き交うのを眺めていたことも良い思い出です。東日本大震災の影響もあり、将来はエネルギー関連の仕事に就き、社会に貢献したいと思っています。



「エネルギー問題に貢献できるような仕事に就きたい」と語る東田さん

## International exchange Report

国際交流レポート  
平成23年12月  
～平成24年2月

12 / 5

算数・数学の学習環境の国際デザインワークショップ in Plymouthを開催(7/05)

本学教育学部とプリマス大学(イギリス)教育学部の教員の共同企画により、プリマス大学ほかにて開催。本学教育学部から教員2名、学生6名、プリマス大学から教員2名、学生18名が参加。

6

みなまた環境塾国際シンポジウム(MISSION21)を開催(8/05まで)  
大学院自然科学研究科環境MOTコアスみなまた環境マイスター養成プログラムを開催。熊本市内ホテルでの研究発表会、水俣市視察意見交換会、阿蘇フィールドツアー  
に、国内およびアジア6カ国からの研究者約50名を含む100名以上が参加。



12

山東大学(中国)の国際共同教育調査団が来学

16

青島海洋地質研究所(中国)との学術交流  
本学沿岸域環境科学教育研究センターが青島海洋地質研究所から研究者3名を招聘し、研究に関する意見交換や本学合津マリンステーションなどの視察を行いました。



18

外国人留学生のための就職説明会(熊本県主催、高等教育コンソーシアム熊本共催)

19

四川大学錦江学院(中国)の訪問団が来学

20

海外留学成果発表会を開催

21

留学生交流パーティーを開催



世界から熊本大学へ

# 熊大で耐震技術を学び 母国の防災に貢献したい

大学院自然科学研究科 構造力学研究室  
博士後期課程1年 アフザリ・ハミッドさん

地震や耐震構造について研究をする  
イランからの留学生・アフザリ・ハミッドさん。  
将来は、地震に耐え得る建築物や橋梁を造ることで、  
社会に貢献したいと語ります。



「東日本大震災後の日本の復興力にとっても感動しています」と語るアフザリさん。日本は、世界の中で、もっとも地震の多い国の一つ。子どものころから地震の研究がしたいと思っていたアフザリさんは、イランの大学と大学院で土木工学や構造力学を学んだ後、熊本大学に留学しました。「日本とイランで同じ規模の地震が起こったとしても地震後のダメージは、圧倒的にイランの方が大きい。構造力学の研究が進む熊本大学の山尾研究室で学び、イランの防災対策に少しでも貢献したいと思いました」と留学の動機を語ります。また、日本人の危機管理能力や精神にも関心を寄せるアフザリさん。「日本は緊急時の備蓄や、東日本大震災後の



「熊本で一番好きな場所は、江津湖です」。熊本市国際交流振興事業団が主催するプログラムで、江津湖に関するプレゼンテーションを日本語で披露した



現在、日本語の勉強中だというアフザリさん。地元の人と地元の言葉で話せば、もっとコミュニケーションがとれると楽しみにしている

「東日本大震災後の日本の復興力にとっても感動しています」と語るアフザリさん。日本は、世界の中で、もっとも地震の多い国の一つ。子どものころから地震の研究がしたいと思っていたアフザリさんは、イランの大学と大学院で土木工学や構造力学を学んだ後、熊本大学に留学しました。「日本とイランで同じ規模の地震が起こったとしても地震後のダメージは、圧倒的にイランの方が大きい。構造力学の研究が進む熊本大学の山尾研究室で学び、イランの防災対策に少しでも貢献したいと思いました」と留学の動機を語ります。また、日本人の危機管理能力や精神にも関心を寄せるアフザリさん。「日本は緊急時の備蓄や、東日本大震災後の

助け合い、そして困難に立ち向かう姿など、技術面以外でも学ぶべきことが多い国です」。

研究室では、インドネシアやトルコからの留学生など、仲間とともに研究に励んでいます。「国境を越えて、みんなで助け合いながら研究を続けています」。街に出ると、いろんな方が親切に声を掛けてくれるのがうれしいと語るアフザリさん。「デパートへ行くと、店員さんが丁寧にお辞儀をし、目的の売り場まで私を連れて行ってくださいます。日本の経済発展の秘密は、高い技術力に加え、顧客を尊敬する精神が根底に流れているからだと感じます」。

2014年の10月まで熊本で学ぶアフザリさんは「将来は、熊大で学んだ技術を基に、耐震に関わるプロジェクトに参加したり、日本の高い文化をイランで伝える活動をしていきたい」と目を輝かせます。

- 17 異文化交流国際研究会(南榮技術学院(台湾)主催) 本学教育学部および久留米大学共催  
南榮技術学院にて開催され、日本の6大学から本学教職員4名をきむ14名が参加。24名による研究発表が行われ、参加者は全体で100名以上。

日本語研修コース修了式、短期留学プログラム開講式

1/6 大学院社会文化科学研究科「中国短期調査及び研究交流2011」を実施(12日まで)  
大学院生15名が中国の交流協定校(復旦大学、同濟大学)を訪問し、中国の政治・行政システムについて学びました。

10 第9回熊本大学フォーラム(上海)を開催  
本学理事や各研究科長等による本学紹介、中国の大学の代表者による講演などが行われたほか、谷口学長と中国の交流協定校代表者との懇談会や、在上海本学OB交流会も開催し、約170名が参加。

熊本上海事務所開所式を挙行

谷口学長が上海杉達大学(中国)を訪問

谷口学長が上海大学(中国)を訪問

みなまた環境塾イベントセミナーを開催

11 シンガポール南洋理工工科大学NUS WUN CPOZ教授による排水処理に関する講演が行われ、22名が参加。(2月13日も、中国広西医科大学副学長・病院院長である趙勳氏氏による医療廃棄物の現状に関する講演が行われ、23名が参加)

12 留学生実地見学旅行を実施(16日まで)  
島原・雲仙、長崎方面への見学旅行を実施し、本学留学生117名が参加。

# 卒業生ジャーナル

## Graduates' Journal

本学の卒業生たちの“今”に迫る「卒業生ジャーナル」。

熊本県内はもとより、国内外で活躍する先輩たちの

これまでの歩みや苦勞、そして喜び、楽しみなどを通して

精勵するその姿をご紹介します。



### 岡崎 豊 Yutaka OKAZAKI

新日鐵化学株式会社（千葉）勤務

工学部物質生命化学科・平成20年度退学（飛び級による大学院進学）/大学院自然科学研究科物質生命化学専攻博士前期課程・平成22年度修了



私は、半導体封止材向けの樹脂開発を行っています。さまざまな耐久性試験から得られるデータを基に劣化メカニズムを解析し、耐久性のある新規樹脂を開発することが現在の業務です。在学中は研究活動に没頭する日々でした。夜通し行った電子顕微鏡観察の後、朝日を浴びながらネガを運んでいたことを思い出します。研究室で身に付けた「観察力」は、会社で研究開発をしていく上で大きな支えになっています。皆さん、学生生活では研究やサークル活動など、好きな事に没頭することができます。好きな事に思い切り取り組んで得られた自信は、今後自分を支える大きな力になるので全力投球してください。



### 尾崎 弘尚 Hirotaka OZAKI

熊本市立田迎小学校 勤務

教育学部小学校教員養成課程（国語科）・平成18年度卒



現在、熊本市内の小学校で教諭として働いています。昔からの夢をかなえることができ、素直でかわいい子どもたちと楽しい毎日を送っています。熊本大学では多くの素晴らしい先生方や仲間との出会いがあり、今でも深いつながりを感じています。ゼミ室で仲間と深夜まで、時には朝まで研究に没頭したこと、今では最高の思い出です。また、準硬式野球部で練習に励んだ日々は、毎日が活気と笑いにあふれていました。今ではそれらが私の大きな支えになっています。これから子どもたちと共に笑い、共に泣き、共に成長する人間でありたいと思います。この道を選んだことに、一片の悔いなしです！



### 平川 怜奈 Rena HIRAKAWA

経済産業省 本省（東京）勤務

法学部・平成21年度卒



経済産業省から内閣官房に出向し、現在「環太平洋パートナーシップ」の広報に携わっています。在学中にドイツに留学し、言葉が通じない中で挑戦する日々を経て、精神的に非常にタフになりました。また両親、教授をはじめ、たくさんの方が私の挑戦を支え、応援してくださいましたことに感謝しています。現在仕事は大変なことも多いのですが、日々周りに支えられてがんばっています。どんなことから学ぶことは可能です。無駄、自分には合わないと思えれば、ぜひたくさんの方に挑戦してほしいと思います。





## 末永 拓也 Takuya SUENAGA

野村証券株式会社(東京) 勤務  
文学部コミュニケーション情報学科・平成22年度卒



資産運用を行い、問題解決型のコンサルティングビジネスをしています。証券会社とえば「株式」のイメージが強いと思いますが、従来の証券ビジネスの枠にとらわれない商品・サービスの提案を通じて日々の業務を行っています。国内外の情勢の変化に伴い、多様化するお客様のニーズに応え、信頼できるパートナーになることを目指しています。日本人のライバルはもはや日本人ではありません。企業は優秀な人材を世界各国から採用しています。学生時代という大切な時期に自分自身をよく見つめ直し、広い視野で物事を捉える訓練をしてください。皆さまのこれからのご活躍を心より祈念しています。



## 鳴海 恵子 Keiko NARUMI

九州保健福祉大学薬学部薬学科臨床薬学第一講座 勤務  
薬学部薬科学科・平成12年度卒/大学院薬学研究科臨床薬学専攻博士前期課程・平成15年度修了



地元宮崎の病院と調剤薬局で計6年間の実務経験を経て、3年前より、延岡の大学で未来の薬剤師を育てるお手伝いをしています。私の熊大時代といえば、勉強よりもよく飲み、よく遊んだことばかりだったように思います。決して“良い学生”ではなかったけれど、多くの仲間や先輩方、そして厳しくも温かい先生方との出会いにより、私自身多くのことを学び、成長することができたと思っています。学生の皆さんには、熊大ならではの伸び伸びとした環境の中で、“今”しかできないことをたくさん経験し、多くのことを学び、大きく成長してほしいと思います。



## 下高原 昭廣 Akihiro SHIMOTAKAHARA

独立行政法人国立病院機構 埼玉病院呼吸器外科(埼玉) 勤務  
医学部医学科・平成10年度卒



呼吸器外科医師として、肺がんをはじめとする胸部外科手術を担当しています。以前は、約10年間小児外科を専攻していましたが1年前に思い切って転科しました。40歳を前にして大丈夫だろうかと迷いましたが、在学時代、社会人として働いた後で大学に入学した同級生たちを思い出し、「何とかなる」と決断しました。家族を抱えながら懸命に勉強していた当時の彼らと同じ年代になった今、改めてその覚悟・気迫を感じています。在校生の皆さん、大学時代に巡り合う人々や、自分が感じたこと・考えたことを大切にしてください。それらは人生のさまざまな場面でヒントを与えてくれ、あなたの背中を押してくれることでしょう。



## 水永 泰介 Taisuke MIZUNAGA

三井石油開発株式会社(東京) 勤務  
理学部地球科学科・平成16年度卒/大学院自然科学研究科自然システム専攻博士前期課程・平成18年度修了



地質担当技術者としてドバイの関連会社へ出向・駐在し、中東・北アフリカ地域の石油・ガス探鉱開発における、既存案件管理および新規案件評価などの業務に携わっています。大学卒業まで一度も海外の経験が無かった私にとって、E&P業界に飛び込んだことは非常に大きな挑戦で、現在も緊張の連続ですが、砂漠の地平線上やかげろうに浮かんだリグ(掘削機)、整然と並んだ生産施設を見ると気持ちも熱くなります。今後も経験を重ねて技術を磨き、またさまざまな人種・文化・宗教と接する中で、少しずつでも世界が広がれば素晴らしいと感じています。熊大で出会った方々に心より感謝申し上げます。

## Report 「熊本上海事務所」のオープニングセレモニーを開催



(上)熊本上海事務所オープニング式典で、テープカット(右より、幸山政史熊本市長、蒲島郁夫熊本県知事、谷口学長)  
(左)熊本上海事務所の皆さん。(写真後列左から、吉田二浩さん(熊本県)、杉本幸生さん(熊本市)、中浦和一人(顧問)。前列左から、顧文潔さん(同済大学4年生)、姚双惠さん(工業アドバイザー)、陸曉麗さん(アシスタント)、何海洋さん(熊本大学))

熊本県、熊本市および本学の3機関が共同で、「熊本上海事務所」を上海市内梅龍鎮広場(上海伊勢丹百貨店入居ビル)の15階に設置しました。1月11日(水)に行われた開所式では、熊本県知事、熊本市長、熊本県議会議長、熊本市議会議長および社団法人熊本県貿易協会会長と共に、谷口学長がテープカットを行いました。また、同日18:30から上海国際機場賓館にてレセプションが行われ、上海市政府関係者、在上海日本国総領事館関係者、上海市熊本県人会関係者など約200名が参加。盛会のうちにその幕を下ろしました。

## Report 「熊本大学先進マグネシウム国際研究センター」オープニング記念式典を開催しました

2月29日(水)、熊本ホテルキャッスル(熊本市)において「熊本大学先進マグネシウム国際研究センター」のオープニング式典が開催され、海外からの研究者をはじめとする総勢240名の出席を得ました。

同センターは、センター長の河村能人教授が2001年に開発した「KUMADAIマグネシウム合金」の国際共同研究拠点として、平成23年12月に学内に設置。「強くて軽く耐熱性を備えた次世代の新素材」「CO<sub>2</sub>削減への挑戦」をキャッチフレーズに世界の研究機関やボーイング社、GMをはじめとする世界の企業の注

目を集めています。

式では、谷口学長らとともに、センター名が刻まれたプレートの除幕式や記念講演が行われました。

中国や米国、カナダなど5カ国の研究者からの祝辞があり、中国有色金属工業協会の史文方副会長からは「中国でも100を超える大学や企業がマグネシウム合金について研究しているが、KUMADAIマグネシウムの評価は極めて高い。共同研究をさらに進めたい」との言葉をいただきました。

翌3月1日(木)は、キックオフイベントとして、本学工学部百周年記念

館において国際シンポジウムが行われ、研究者および学生による活発な研究成果発表が行われました。



プレートの除幕式にて(写真左より、原田信志副学長、谷口学長、両角光男副学長、河村能人熊本大学先進マグネシウム国際研究センター長)

## Report 地域マネジメントプラットフォーム形成研究事業「地域づくり交流会—熊本発、交流から学ぶ地域マネジメントの知恵—」を開催

3月1日(木)、本学くすのき会館にて、熊本大学政策創造研究教育センター主催の地域マネジメントプラットフォーム形成研究事業「地域づくり交流会—熊本発、交流から学ぶ地域マネジメントの知恵—」が開催されました。同センターが地域づくりの研究や実践に通じて協働してきた5地域の地域づくり団体および関係自治体が一同に会し、第1部は各地域の取り組みや成果、実践上の工夫などの事例発表会を行い、第2部はワークショップ形式で実施。懇親会では、地域間の相互交流や先進的な

取り組みについて活発な情報交換が行われました。

【参加地区・地域(分野)】

①芦北町大岩地区(むらづくり)②天草市崎津・今富地区(文化的景観保全)

③天草市宮地岳地域(グリーンツーリズム)④熊本市若葉・泉ヶ丘地区(子育て支援)⑤山都町白糸台地域(文化的景観保全)



ワークショップでは、各地域よりさまざまな声が上がリ、会場は大いに盛り上がった



Report 平成23年度学生表彰

3月14日(水)、本学工学部百周年記念館において、課外活動指導者に対する感謝状贈呈式と学生表彰式が開催されました。



学生表彰者(学業成績優秀者除く)

【団体】

団体名	大会等名	種目等名	成績
ダイビング部	第44回関東学生潜水連盟フリッパー競技大会	団体	優勝
	NHKくまもの風スペシャル 第5回大学対抗映像コンテスト	団体	優勝
弓道部	第49回九州学生弓道選手権大会	団体	優勝
ボート部	夏季九州学生レガッタ大会	団体	優勝
	秋季九州学生レガッタ大会	団体	優勝

課外活動指導者に対する感謝状贈呈者

指導者名	指導期間	指導団体名
早川 斎嘉	10年	ボート部

【個人】

氏名	所属(平成23年度)		大会等名	種目等名	成績
林 綴奈	工学部	3年次	第44回関東学生潜水連盟フリッパー競技大会	潜水女子 200m	優勝
西山 英孝	理学部	3年次	第44回関東学生潜水連盟フリッパー競技大会	男子 100m	2位
堤 里帆	教育学部	2年次	第44回関東学生潜水連盟フリッパー競技大会	女子 50m	優勝
				女子 100m	優勝
田中 龍二	教育学部	1年次	第44回関東学生潜水連盟フリッパー競技大会	男子 50m	優勝
岩崎 真和	理学部	1年次	第44回関東学生潜水連盟フリッパー競技大会	新人男子 200m	優勝
				男子 100m	優勝
				男子 400m	優勝
土師 正稔	工学部	3年次	第9回全九州学生テコンドー選手権大会	男子 -68kg級	優勝
神垣 貴晶	工学部	2年次	第9回全九州学生テコンドー選手権大会	男子 -54kg級	優勝
元満 文音	理学部	1年次	第9回全九州学生テコンドー選手権大会	女子 -49kg級	優勝
又木 雪乃	法学部	3年次	春季九州学生フェンシング大会	女子サーブルの部	優勝
塩崎 かおり	法学部	3年次	秋季九州リーグフェンシング大会	エベ女子	優勝
中尾 有沙	教育学研究科	2年次	第66回九州陸上競技選手権大会	一般女子三段跳	優勝
			第81回九州学生陸上競技対校選手権大会	女子三段跳	優勝
大迫 淳一	工学部	4年次	第39回九州学生陸上競技選手権大会	男子 200m	優勝
			第61回九州地区大学体育大会	男子 200m	優勝
高瀬 怜奈	教育学部	1年次	第27回日本ジュニア選手権混成	ジュニア女子七種競技	優勝
			第39回九州学生陸上競技選手権大会	女子混成七種競技	優勝
			第81回九州学生陸上競技対校選手権大会	女子混成七種競技	優勝
平川 敦子	教育学部	4年次	第65回記念二紀展	一般の部	奨励賞

## Report 第7回熊本大学学際セミナー「ポスト3.11から新たな行動変容を考える」を開催



講演を行う京都大学防災研究所・岡田憲夫教授

3月17日(土)、本学工学部2号館において、第7回熊本大学学際セミナー「ポスト3.11から新たな行動変容を考える」が開催されました。京都大学防災研究所・岡田憲夫教授を迎え、「ポスト3.11が問いかける格段の総合化と学際融合への挑戦—安全・安心で生き活きとした共存社会を目指して—」と題した基調講演が行われました。岡田教授は東日本大震災を受け、総合防災研究の格段の発展が求められる現状と課題、災害リスクマネジメントの重要性、学際化の意義などについて講演。第2部では法学部・伊藤洋典教授、熊本

大学政策創造研究教育センターの都竹茂樹教授、田中尚人准教授によるミニ報告。第3部のパネルディスカッションでは、「ポスト3.11から新たな行動変容を考える」と題し、学生をはじめとする多くの人々の質問に答える形でディスカッションが行われました。



## Info 工学部研究資料館が4月から定期的に一般公開されます

本学工学部研究資料館(旧熊本高等工業学校機械実験場)は、旧制熊本高等工業学校の機械実験工場として明治41年に竣工。本学に引き継がれた後の昭和45年まで実習施設として使用され、現在は国の重要文化財に指定されています。明治39年から昭和6年にかけて購入された、主にアメリカ製の工作機械が国内で本来の用途として動作・運用可能な状態で保存されている例は他に無く、建物と共に重要文化財に指定されました。平成24年度から、毎月第3金曜日の13:00~16:00まで公開します。併せて多くの史料もご覧ください。



## Info 高校生のための熊大ワクワク連続講義

本学を代表する教員がどんな夢を持ち研究を行っているのか、高校の学習内容と研究がどのように関連しているかについて学びます。

開催時期／6月9日(土)~11月17日(土)  
※毎週土曜日、計15回開催  
10:00~12:00  
13:00~15:00

場 所／本学全学教育棟C301教室ほか  
対 象／高校生

事前申込／熊本県内の高校生は学校を通じ、参加申し込みください。(4月中旬に各校へパンフレットを配付)



熊本県外の高校生は、直接、高大連携推進室にお問い合わせください。  
参加費／無料



高校で学んでいる授業内容が、どんな研究に結び付くのかなど、研究者の言葉を通して大学で学ぶ楽しさを知ることができる

【問い合わせ】

熊本大学高大連携推進室

Tel.096-342-2142

E-mail:gag-koda@jimu.kumamoto-u.ac.jp



# 熊本大学基金へのご協力に感謝し、心より御礼申し上げます。

No.17 (平成23年11月1日～平成24年2月29日)

卒業生の皆さま、在学生の保護者の皆さま、法人・団体等の皆さま、本学の退職者及び教職員の皆さまからご寄附をいただき、平成24年2月29日現在、その寄附総額は約5億円となっております。皆さまのご協力に厚く御礼申し上げます。

今号では、平成23年11月1日から平成24年2月29日までの間に入金を確認させていただきました個人71名、2法人・団体等の寄附者すべての皆さまへ感謝の意を込め、ご芳名を掲載させていただきます。公開を希望されない寄附者につきましては、掲載しておりません。

また、万一お名前がもれている場合は、誠に恐縮ではございますが、募金推進室(電話:096-342-2029)までご連絡ください。皆さまの更なるご支援とご協力を賜りますよう心よりお願い申し上げます。

## 1. お名前・寄附金額の掲載を希望された寄附者

(寄附金額別、五十音順・敬称略にて掲載させていただきます。) ※( )内の数字は、累計寄附金額(万円)です。

【200万円】 東レ株式会社(800)  
 【30万円】 谷口 功(130)  
 【10万円】 菊池 健(50)  
 【5万円未満】 山本 悦夫(20) 川上俊一郎 松尾 康成

## 2. お名前のみ掲載を希望された寄附者

(五十音順・敬称略にて掲載させていただきます。) ※[ ]内の数字は、累計寄附回数(回目)です。

阿多 為義 荒木 忍[4] 生駒 明[3] 宇佐美しおり[9] 内田 フキ 上井 雄二 江藤 洋朗  
 大串 渉[4] 緒方 裕斗 緒方 安孝[2] 小野 省五[2] 海部 静男[2] 川瀨 正光[3] 川端 秀明  
 菊地 晋一 窪田 廉之[2] 佐々 理[3] 相馬 和夫[2] 立石 哲矢 塚元 正子[2] 常葉 謙二[3]  
 永井 隆一[5] 永吉 正和 野中 久翁 蓮田 太二 羽山紘一郎[3] 平野 俊一 細田 明伸  
 堀田圭之介 村山 伸樹[5] 森 秀樹 森田 敏朗 両角 光男[3]  
 医療法人和光会前田病院

## 3. お名前・寄附金額の掲載を希望されない寄附者

個人33名

## 特別栄誉会員(桑野幸徳様、上田京二様、出田秀尚様)に感謝状を贈呈しました

熊本大学基金にご寄附いただきました特別栄誉会員(個人)である、桑野幸徳様、上田京二様、出田秀尚様の御三方に、このたび、谷口学長から感謝状と副賞の扁額が贈呈されました。

御三方とも、頑張っている学生さんや熊本大学の更なる飛躍のために役立てていただきたいというお気持ちから、熊本大学基金にご寄附いただきました。



桑野幸徳様(S38理)



上田京二様(S28医科)



出田秀尚様(S38医)

平成24年度 熊本大学

受講生  
募集中

前学期  
・  
後学期

# 公開講座 授業開放

※前学期授業開放の募集は締め切りました。

ワグナー芸術への招待  
世界の宗教と思想からみる「あの世」  
新聞の読み方講座「言葉に強くなる」  
音楽で巡るアメリカ映画の歴史  
公共政策デザイン講座  
ソーシャルマーケティングを学ぼう  
陸上競技教室  
自尊感情を高めるピアカウンセリング入門  
在宅で医療的ケアを行う障がい児の訪問看護の基礎  
看護倫理セミナー 2012  
看護診断セミナー 2012  
看護研究セミナー  
看護職の人材育成セミナー 2012  
「食育」講座  
リーダーシップ・トレーニング  
教育デザイン・ワークショップ  
メディカルフィットネス  
プレゼンテーション入門

※平成24年度開講予定公開講座一覧。  
実際の開講科目とは異なる場合があります。

熊大は、あなたの  
「学びたい」を応援します。

また、「自分」はじめよう。

昔は苦手だった科目も、大人になると不思議とまた勉強したくなったりしませんか？  
そんなあなたにおすすめしたいのが熊本大学の公開講座や授業開放。桜の咲く季節に、  
新しい「自分」はじめてみませんか？

詳しい資料をお送りしますので、  
まずはお気軽にお問い合わせください！

主催 熊本大学政策創造研究教育センター

地域連携ユニット 公開講座・授業開放担当

お問合せ ☎ 096-342-3121

✉ manabou@jimu.kumamoto-u.ac.jp

www.cps.kumamoto-u.ac.jp

熊大で生涯学習

検索



国立大学法人  
熊本大学

〒860-8555 熊本県熊本市中央区黒髪2-39-1 TEL.096-344-2111(代)

http://www.kumamoto-u.ac.jp/

■黒髪キャンパス ■本荘・九品寺キャンパス ■大江キャンパス